

令和4年度 第2回本部港（本部地区）環境監視委員会

前回委員会における意見とその対応（案）

令和5年3月13日

沖縄県土木建築部 北部土木事務所

【前回委員会の質問回答について（その1）】

意見等	対応
種数の計数の方法について、複数種を一種として数えるのはそれほど問題ではないが、成魚を1種としてカウントし、同じ種の可能性があるが、発育段階が違って同定できなかった種を別種として、2種としてカウントするのは問題があるので、検討する事。	種数の計数方法については、ハゼ科やブダイ科などの種まで同定できなかったものは、複数種が入っている可能性があるので、種数合計から除いて資料を取りまとめました。

【前回委員会の質問回答について（その2）】

意見等	対応
在来種の保全の件について、以前も意見が出ていたが、関係機関との調整で具体的にはどのような対応を考えているのか？ 密猟等に関する対応について、「環境省」のやんばる事務所等にコンタクトを取られたほうが良い。	環境省の担当官にヒアリングしたところ、大型クルーズ船の運航に伴い、「在来種の持ち出し」「ロードキルの多発」「外来種の持込」などが懸念されるため、パンフレットの作成や配布、船内で上映するショートビデオなどの作成など、具体的な対応を今後関係機関と調整うえ、検討したいと考えています。

【前回委員会の質問回答について（その3）】

意見等	対応
排水処理の対応について、一般論を説明していたが、運航会社は海洋汚染防止法等に則って対応していることから、同法に準拠していることを報告書に記載すれば良い。 運航会社に問い合わせでマネジメントポリシーを調べてみる方法もある。	海洋汚染防止法に準拠している旨、記載いたします。 各運航会社では「海洋汚染防止法」の遵守は大前提です。 トイレ排水の処理の一例として、①真空圧で収集・集積→曝気→沈澱→上澄み液を殺菌→排出といった処理の方法があるようです。

【浚渫工事について】

意見等	対応
浚渫工事が今年度計画されていたようであるが、今年度はなぜ中止になったのか？次年度に実施するのか？そうであれば工事規模はどの程度か？	20万トンクラス的大型船の入港に際し必要な水深を確保するために、堀残し部分について浚渫を行う予定でしたが、今年入港した日本のクルーズ船の大きさでは必要ないため、来年度実施することとなりました。浚渫の作業は小規模なものになる予定です。

【モズクの作付け状況に表示されている水温について】

意見等	対応
<p>モズク養殖時期の水温の変化について、このグラフのデータはどこから入手したのか？</p> <p>水温は1日の間でもかなり変動するので、毎週1回のデータをその時期の水温の代表とするのは問題がある。</p> <p>瀬底のデータも利用したほうが良い。更に、今年度はサンゴの白化についても懸念されているため、1月の調査結果を判断するうえでも水温のデータを入手して検討したほうが良い。</p>	<p>本部の水族館で毎週1回の水温データです。瀬底島の観測データ等を入手しましたので、資料に反映いたします。</p> <p>また、前回委員会資料における本部（海洋博公園）と瀬底島の観測データについて、比較資料を作成しました。</p> <p>（添付資料1 参照）</p>

●添付資料 1

①美ら海水族館の水温データ

毎週金曜日の午前10時頃に同水族館沖合300m地点の水深20mからポンプにて採取し、配水管を通じ水槽に入る直前の海水温を取りまとめています。

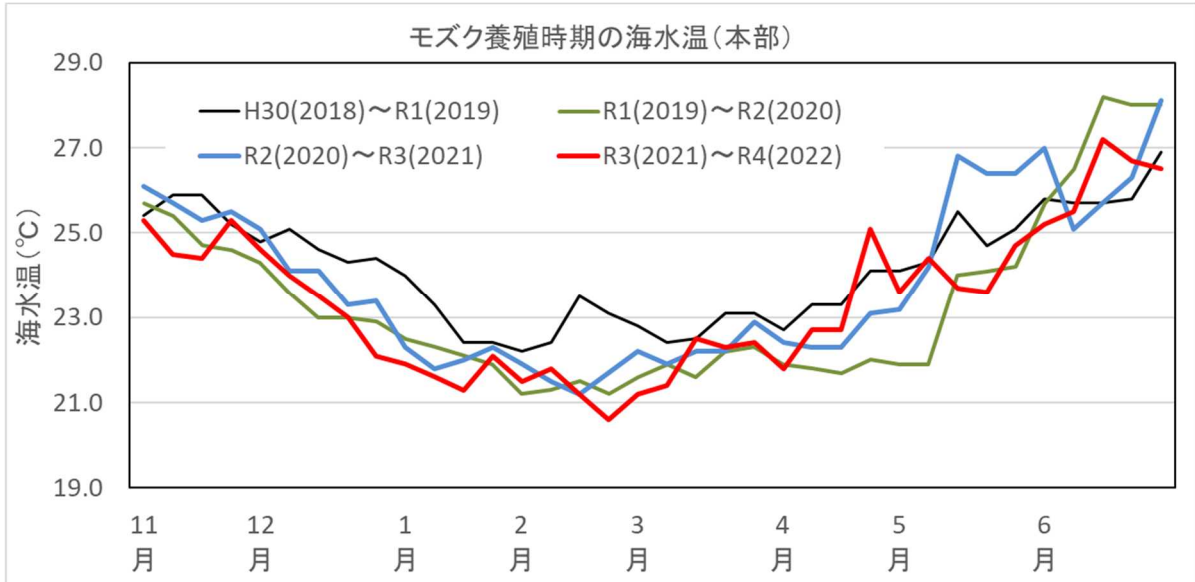


図1 本部（美ら海水族館）の水温データ

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN11/suion/netsuion.html>

②瀬底島の水温データ

平日の毎日2回（午前と午後）、研究センター地先の海水温を観測されており、観測値を1週間平均してグラフ化しました。

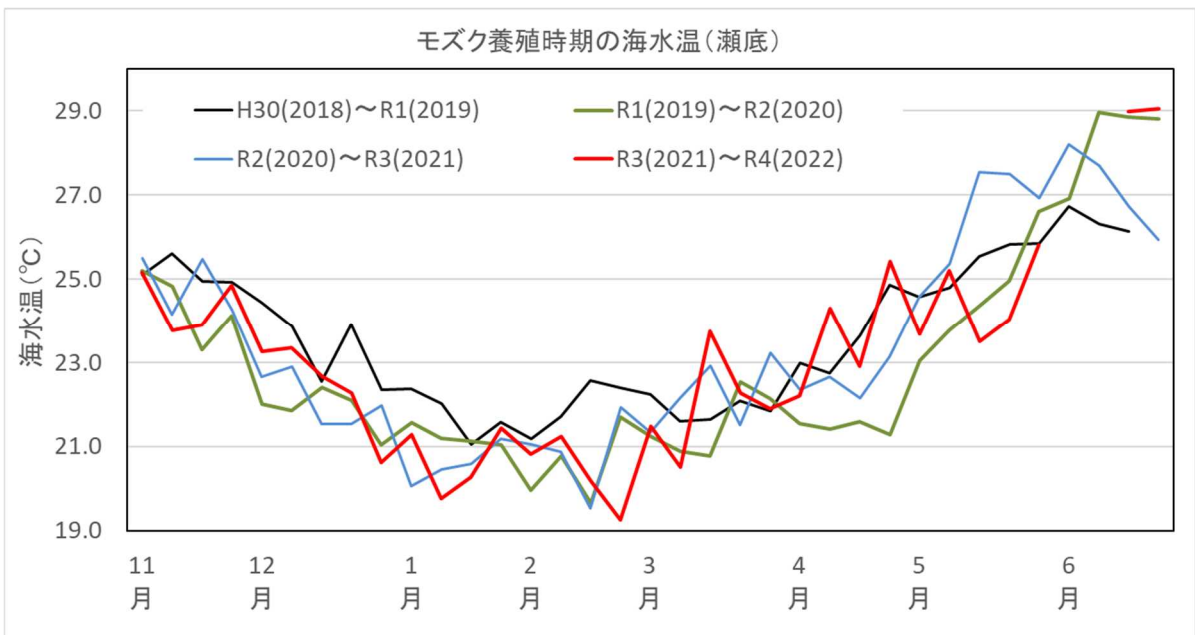


図2 瀬底島の水温データ

資料：「琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設沿岸観測データ」